

令和3年度第2回行政評価市民会議

日 時：令和3年9月13日（水）18時25分～20時25分

場 所：鹿角市役所 第1・2会議室

出席委員：6名（2名欠席）

出席職員：〔政策企画課〕

課長、副主任兼室長、副主任、主査、主査

1 開会（進行：政策企画課）

ただいまから、令和3年度第2回行政評価市民会議を開会いたします。

2 会長挨拶

本日2回目の会議となります。自分が得意な分野やとつきにくい分野など、いろいろあるかと思いますが、皆さんと一緒にこの行政評価を進めて行きたいと思います。よろしくお願いします。

3 案件

（1） 第6次総合計画後期基本計画重点プロジェクト評価及び施策評価について（資料1）

説明：副主任兼室長

質疑

（委員）移住・交流推進プロジェクトでは、転入者数で評価しているようですが、転出者数はどうなっていますか。

（事務局）単年度の転出者数ですと、令和元年度は738人、令和2年度は659人となっています。転出者が減少しているのは改善しているということではなく、人口減少の影響だと思っています。その中でも特に若年女性の転出割合が高くなっていることが課題と捉えています。

（事務局）転勤も縮小傾向にあるようで、転入出の規模が年々縮小しています。

（会長）転入者数は、働いている人だけではなく、すべての年代の人ということですか。

（事務局）そうです。

（委員）子どもの笑顔きらめきプロジェクトで、「放課後児童クラブの待機児童解消のための受け皿の整備が必要」とありますが、具体的にどのように進めるのですか。

（事務局）待機児童が発生した背景ですが、これまでは低学年を対象としていたものを、高学年まで拡充したことにより、待機児童が発生しています。ただ、利用の申し込みはしたものの、実際は利用し

ていないというケースも多いようです。サービスを受けたくても受けられないという事案が発生しているわけではないのですが、ニーズに応じた受入体制は整備する必要がありますので、今ある施設で、児童数のバランスを見ながら対策を講じます。

(委員) 産業力強化プロジェクトで、令和2年度時点の雇用創出数の実績が354人ですが、業種の内訳はどうなっていますか。

(事務局) 一番多いのは製造業です。続いて、起業・創業が多くなっています。

(委員) 私の職種は建築業で、最近は県などから女性人材としての活動や情報発信を依頼されることが多いのですが、女性だけではなく、男性の担い手不足も深刻だと感じています。女性の人材確保の対策や男性の雇用対策など、どのように進めていますか。

(事務局) 製造業や建設業に限ったことではないのですが、女性が鹿角で活躍できるようにという観点から、女性活躍促進事業として、就業に必要な資格習得の支援や在宅で仕事ができるテレワークに必要なスキルの習得支援などを継続してきました。

(事務局) 建設業については慢性的な人手不足であると認識しています。女性の就労促進については、人口減少にも関係してきますので、第7次総合計画で強化していきたいと考えています。

(委員) みらい輝く人づくりプロジェクトの、質の高い職業人の育成として、産業活力塾などの取り組みが起業家の創出につながっていると感じています。

(事務局) 産業活力塾は鹿角の産業を牽引してくれるような人材を育てたいという目的ですが、次世代の会社経営の担い手や起業したいという意欲を持つ方々に参加していただき、成果が出た取り組みだと考えています。

(委員) 鹿角市は第3子以降に手厚い支援をしていると思うのですが、晩婚化や未婚化を考慮すると、第1子からの支援が必要ではないかと思います。第1子からお金がかかりますし、それに加えて、出産できる病院も遠くなったので、まずは第1子の子どもが欲しくなるような工夫を期待したいです。高学年まで児童クラブの受入が拡充されたのはありがたいと思うのですが、その反面、そこで働く人材の確保が大変だと思います。高学年まで受入を広げた理由は要望によるものですか。

(事務局) 鹿角市は、県内13市の中でも、合計特殊出生率が県内2番目、その前の調査では1番目と上位なのですが、詳しく分析すると第3子以降の出生割合が高いことが分かりました。その点において政策の効果が表れていると思いますが、市では、第3子以降への支援だけではなく、第1子からの支援にも取り組んでいました。それが、以前実施していた「ファーストベビー祝い金」だったのですが、実際には、第1子の出生数の増加といった成果につながりませんでした。祝い金のような一時的な支援よりも、子どもの一時預かりや放課後児童クラブの拡充など、仕事と子育ての両立を支える仕組みづくりが必要ということから、今の施策に至っています。今後も必要な取り組みを検討し、然るべき対策を7次総で進めていきたいと思っています。放課後児童クラブについては、全国的な流れを汲んでいます。対象児童を高学年まで広げたのは、スポーツ少年団の活動が盛んになってきたことが背景にあります。指導者が学校の先生ではないため、活動開始時間が遅くなるなどの事情があるので、スポーツ活動を支えるためにも必要な対策であるという考えで実施しています。

(委員) 実際に高学年の利用者は多いのですか。

(事務局) 地区によって状況は違うと思います。例えば、八幡平では、実際にはあまり利用しなくても、

登録だけはしておこうという傾向があるので、待機児童という数字が出てしましますが、料金設定を月単位にするなど、実態に沿った効率的な運用となるように努めています。

(事務局) 低学年児童に比べれば高学年児童の利用割合は低いと思いますが、昔のように低学年から高学年まで一緒に遊んで上下関係も学べる場が少なくなってきた中で、放課後児童クラブで異学年が一緒に過ごすことで、上級生が下級生の面倒を見るなど、教育的な場所にもなっているようです。

(委員) 高齢者が運転免許証を返納すると、バスやタクシー利用の補助があると聞きましたが、正確にはどのくらい補助になりますか。

(事務局) 70 歳以上または運転免許証を返納した方に対し、路線バス回数券および高齢者向け定期券購入費用の 2 割を助成しています。高齢者福祉タクシー券は、在宅で生活している満 80 歳以上の方に 500 円のタクシー券を 1 月あたり 2 枚交付（福祉タクシー券の交付を受けている方、本人や同居している家族が自動車を使用している方、介護保険施設等に入居中の方は対象外）しています。市が実施している各種補助については、毎年広報 5 月号に一覧を載せています。

(委員) ラジオは無償ではないのですか。

(事務局) 災害時に自動的に緊急放送を受信する機能を持つ防災ラジオは、避難行動要支援者の方に無償で配付しています。一般の方には 3,500 円で貸出しています。

(委員) 目標に対する推移や結果から、産業力強化プロジェクトでは新型コロナの影響を受けたのだらうと想像できるのですが、それ以外で影響を受けたプロジェクトはありますか。

(事務局) 交流の推進ができなかったというのが一番大きかったと思います。プロジェクトでいうと、移住・交流推進プロジェクトが大きく影響を受けたのではないかと思います。

(委員) これまでの実績を見ると、移住・交流推進プロジェクトの C 評価は厳しい評価だと感じました。移住者も増えてきていますし、首都圏の大学との連携も進んでいるので、新型コロナの影響がなければもっと進められたのではないかと思います。目標には達していないのですが、コロナ禍でも LINE などを利用し、できる範囲で工夫していると思うので、個人的に厳しい評価だと思いました。

(会長) 施策評価ではコロナ禍も考慮して評価しているようでしたが、プロジェクトではそのような評価ではないようなので、辛めの評価のように思います。

(事務局) コロナ禍という予想外の社会情勢となりましたが、5 年間の計画と目標を立て、税金を投入して取り組んできたというところがあり、総合的に評価していますが、市民感覚とズレがないか確認させていただきたいという趣旨で、この会議を設けさせていただいています。移住・交流推進プロジェクトでは、毎年、前年を上回る移住者数の成果を出していますし、地域間交流も移住につなげるために地域を賑やかにすることを目的として、一定の成果も生み出せたのですが、指標に到達しなかったということを鑑みて C 評価としています。今回の会議でご確認いただき、もっと評価を上げてもいいとか、逆に評価が甘いなどという市民委員の総意を反映させた評価結果としたいと思います。

(会長) 6 ページのまちなか賑わい創出プロジェクトについても、地域交流にはつながらなかったかもしれませんが、駅前整備もありましたし、魅力向上はしているのではないかなと思ったので、個人的には辛い評価なのかなと感じました。皆さん、2 番の移住・交流推進プロジェクトの評価については B 評価ということでよいでしょうか。まちなか賑わい創出プロジェクトの方はいかがですか。

(事務局) まちなか賑わい創出プロジェクトを構成している施策の大きな柱が、商業の振興になるので

すが、市民アンケートでは、毎回、商店街が寂しくなったという意見が多く、実際に店舗も減少しています。市としては、ハード整備をしっかりとやって環境は整ったと考えていますが、賑わいが生まれているかという観点から、C評価としています。

(事務局) B評価だから終わりということではなく、成果が出たところは引き続き伸ばし、C評価となったものは視点を変えて見直さなければならないという位置づけになります。

(会長) 3ページの角ぐむ「鹿角」ブランド確立プロジェクトにある、「そばの里」や「淡雪こまち」、「北限の桃」などの名称を耳にしますが、このようなネーミングはどこが決めて発信しているのですか。

(事務局) かつの牛や北限の桃ですと、生産者の方がこの名前で売り出したいということで商標登録しています。淡雪こまちは秋田県です。

(委員) 先日シンテッポウユリの収穫の手伝いに行きましたが、生産拡大を進めているようでした。

(事務局) 稲作からの転換作物として生産拡大を進めています。

(事務局) 農産物のブランドのほかに、「そばの里」や「森と水の癒し里」、「スキーと駅伝のまち」など、それぞれの分野で鹿角市の特徴を出したいものを発信してきたのですが、いろいろありすぎるとインパクトが弱くなるという反省点もありましたので、角ぐむ「鹿角」ブランド確立プロジェクトにおいて、鹿角市は総合的にどういうまちなかをコンセプトに取り組んだものです。

(委員) 子どもの笑顔きらめきプロジェクトで、令和2年度時点での出生数の目標値が1,000人ということは、令和2年度の1年間の目標としては370人と設定したのでしょうか。

(事務局) 出生数の目標は、毎年200人ずつ、5年間で1,000人という設定としています。

(事務局) 市では将来人口の見通しとして人口ビジョンというものを策定しており、合計特殊出生率や転入者数の目標値は、そのビジョンにおける試算で導きだしたのですが、結果的にはハードルが高いものでした。

(委員) 第1子に対する祝い金が、出生数の増加に結び付かなかったという話でしたが、分娩機能の集約によって市内で出産ができなくなった時期と重なっていたなどの影響はありませんか。

(事務局) 市内で出産ができなくなったのは3年前の平成30年ですが、ファーストベビー祝い金は、それより前の平成28年から始めています。

(委員) 厚生病院で出産ができなくなったことへの対応として、どのような支援していますか。

(事務局) 市外の医療機関への通院の負担軽減のために、妊産婦の交通費や宿泊費の助成をしています。

(委員) 祝い金は10万円くらいだったと思うのですが、そこまで大きい金額でなくても、産んでくれるということに重点を置いて、市としての気持ちを表す工夫があればいいのではないかと思います。人口が減っていくなかで、働きやすい環境の確保も必要ですが、産んでくれてありがたいという感謝の気持ちを表す取組みがあってもいいと思います。

(事務局) 経済的な支援だけではなく、総合的な取組みが必要だと考えています。

(委員) コロナ禍によって地元回帰の流れが見られるので、お金じゃなくても地元の良さを再発見できるような品物でもいいと思います。鹿角市独自の工夫をしてもらえたらいいと思います。

(会長) 施策評価の方では何かご意見ありますか。

(委員) C評価としたもので、新型コロナの影響を大きく受けたものはありますか。

(事務局) まったく影響がなかったということではありませんが、指標そのものに大きく影響したかという、それほど大きいダメージではなかったのではないかと考えています。もっと根本的な問題ではないかと思います。

(事務局) C 評価ではないですが、6 ページの観光の振興は、体制が整ってこれからという時期にコロナ禍となったので、コロナ禍がなければ A 評価に近づいたのではないかと思います。

(委員) 今年の冬の国体は開催しますか。

(事務局) 開催に向けて準備しています。

(委員) 施策評価の 11 ページの公共交通の確保について、鹿角市の人はほとんど自家用車を持っているので、この先、バス利用が増えることはないと思うのですが。

(事務局) これからの公共交通施策を考えますと、今、自家用車を使っている人をバス利用に誘導することではなく、買い物や医療機関がある中心市街地に誰もがアクセスできるようにすることが大事だと考えています。高齢で運転免許証を返納した方の移動手段の確保や公共交通の空白地帯から中心市街地までのアクセスを確保することについて、重点的に対策を講じていきます。

(委員) この指標の結果は、普段自家用車を利用している人を含めた調査結果だと思うので、車を利用しない人を対象として調査すれば、違う結果になるのではないかと思います。

(事務局) 主に公共交通を利用している人を対象とした調査であれば、結果も変わってくると思います。公共交通に不便を感じている人に対する取組みとしては、地域が主体となって公共交通を確保する地域乗合交通を実施しています。

(委員) たんぽこまち号が土日に運行しないのはなぜですか。若者世代と高齢者では、利用する時間帯が違うのだと思いますが、バスを維持していくためには、学生の利用も考えた方がいいと思います。学生がバスに乗って移動しやすいよう、低料金のたんぽこまち号を土日も乗れるようにすればいいのではないかと思います。

(事務局) たんぽこまち号は本格運行の前に実証運行を行いました。その実績から運行本数を決定しています。たんぽこまち号運行の背景の一つに病院の移転があり、花輪駅から厚生病院をつなぐ循環バスを走らせたいという目的がありました。現在は、乗車数から費用対効果も考慮して平日運行としています。

(事務局) 今年度実施した市民アンケートでは、若い世代から、将来自家用車を運転できなくなったときに不安を感じるという声がありましたので、そのような声も捉えながら、対策を考えていきたいと思っています。

(2) 鹿角市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価について (資料2)

説明：主査

(委員) 先ほどの移住の施策では、仕事と合わせて移住者を募るという説明だったので、子育て世代に対応しているのかなと思いましたが、進学のために市外に出たようなもっと若い世代に対してのアプローチはしているのですか。

(事務局) これまでは、その世代に対する取組みが弱かったので、第7次総合計画では、進学のために市外に転出した方などの若い世代を対象に、鹿角市とのつながりを持ち続けてもらえるよう、ネットワークを構築する新規事業に取り組みます。

(委員) 若い人は、企業の魅力だけを求めているような気がするので、鹿角の魅力を発信していければ、生活のことも考えて、地元に戻りたいという人も出てくるのではないかと思います。

(委員) 結婚支援として出会いの場の提供の取組みでは、参加者の固定化という課題があるようですが、私の地域にも未婚の方が多く、昔のように青年会のような活動もないので、どうしたら結婚する人が増えるのかと気になっています。結婚する人が増えると、出生数も増えると思います。

(事務局) 結婚サポーターというボランティアによる出会いや結婚支援にも取り組んでいます。

(委員) 出会いイベントは、恥ずかしさがあって参加しづらいという話を聞いたことがあるので、参加しやすい出会いの場があればいいと思います。

(委員) 今はインターネットに多くの時間を費やす人が増えていて、若い世代ではマッチングアプリを使う人もいますし、コロナ禍の情勢も踏まえると、対面での出会い以外の方法も有効なのかなと思います。

(会長) 婚姻率はどれくらい下がっているのですか。

(事務局) 平成30年の統計では、婚姻率は人口1,000人対で3.1です。平成元年では4.0で、その後、一番高い値が平成11年の5.0でしたが、年によって上下しながら徐々に低下傾向にあります。

(事務局) 鹿角市における結婚適齢期と言われる年代の男女の人口比率を見ると、女性よりも男性が多く、マッチングにつながらない因果関係があるのかもしれませんが。行政としても出会いの場を提供するなど、できることもあると思いますので、力を入れて取り組みたいと思います。

(委員) 近隣の県など、往来しやすい地域との交流を進めるのもいいと思います。出会いの場の提供数は増えていると思いますが、職場からイベント参加を促すなどをしないと、参加する人が増えないのかなと思います。

(事務局) 結婚支援は第7次総合計画の取組方針の一つにも掲げているので、いろいろなご意見をいただきながら進めていきたいと思っています。

(会長) そのほか、ご意見はないですか。

(事務局) 最後に確認させていただきますが、今回、皆さまからのご意見により、移住・交流推進プロジェクトはC評価からB評価として庁内の内部評価の場で報告させていただきます。

4 その他

(事務局) 次回は3月ころの開催を予定しています。第3回の会議では、これまでいただいたご意見を来年度の計画にどのように生かすかという点が中心となりますので、よろしくお願いします。

5 閉会 (20:25 終了)